

外国語活動について

1. 目標

外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。

2. ねらい

(第1・2学年) 「ふれる」「知る」

- リズム遊び、歌、TPRなどを楽しみながら、英語の音やリズムにふれる。
- 異文化の存在を知り、様々な気付きを通して世界を広げていく。

(第3・4学年) 「楽しむ」「興味をもつ」

- 身近な題材で英語によるコミュニケーション活動を楽しむ
- 身近で初歩的な英語を聞いて、内容を理解しようとする。
- 簡単な質問をしたり、答えたりしようとする態度を身に付ける。
- 英語の文字や符号にふれ、読んだり、書いたりしようとする。
- 異文化に興味をもち、母語や英語に対する意識を高める。

(第5・6学年) 「親しむ」「理解する」

- 外国人講師や地域人材など、様々な人とのコミュニケーション活動に親しむ。
- 身近で初歩的な英語を聞いて分からないところを推測しようとする態度を身に付ける。
- 身近な英語を読むことに関心をもつなど、理解しようとする態度を身に付ける。
- 身近で初歩的な英語で、自分の考えや気持ちなどを相手に伝えようとする態度を身に付ける。
- 身近な英語を書くことに関心をもったりするなど、表現しようとする態度を身に付ける。
- 異文化を理解し、異なる文化をもつ人々と積極的にかかわろうとする態度を身に付ける。

3. 内容

(第5学年及び第6学年)

- 1 外国語を用いて積極的にコミュニケーションを図ることができるよう、次の事項について指導する。
 - (1) 外国語を用いてコミュニケーションを図る楽しさを体験すること。
 - (2) 積極的に外国語を聞いたり、話したりすること。
 - (3) 言語を用いてコミュニケーションを図ることの大切さを知ること。
- 2 日本と外国の言語や文化について、体験的に理解を深めることができるよう、次の事項について指導する。
 - (1) 外国語の音声やリズムなどに慣れ親しむとともに、日本語との違いを知り、言葉の面白さや豊かさに気付くこと。

(2) 日本と外国との生活、習慣、行事などの違いを知り、多様なものの見方や考え方があることに気付くこと。

(3) 異なる文化をもつ人々との交流等を体験し、文化等に対する理解を深めること。

3. 指導計画について

- ① Y I C A の基本的な授業展開の流れに基づいて、授業を実践する。
- ② 各学年に一冊、Y I C A 横浜版学習指導要領指導資料のファイルを配布。1年間各学年で保管。
- ③ 年度末に1年を振り返り、ファイルに加筆、訂正を行って回収する。

4. 授業時数

学年	1・2・3・4	5・6
国際理解	5	5
外国語活動	15	30
計	20	35

5. 国際理解教室と外国語活動の違い

【ねらい】

(国際理解教室) 小学校第1学年からの6年間で6つの国や地域の外国人講師 (I U I) と交流し、英語を使って、異文化を体験的に学習することで、国際社会に生きるために必要な心情や態度を培う。

(外国語活動) 言語や文化に対する理解を深めるとともに、外国語でのコミュニケーション体験を重視し、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。

6. 外国語活動の評価の観点について

① 評価の観点

- (1) コミュニケーションへの関心・意欲・態度
- (2) 外国語への慣れ親しみ
- (3) 言語や文化に関する気付き